

カトリック教会の典礼

◎ 典礼とは何か。

☞1. 「エジプトの国で、主はモーセとアロンに言われた。・・・ この日は、あなたたちにとって記念すべき日となる。あなたたちは、この日を主の祭りとして祝い、代々にわたって守るべき不変の定めとして祝わねばならない。」出 12:1-14

☞2. 「あなたたちはこのことを、あなたと子孫のための定めとして、永遠に守らねばならない。また、主が約束されたとおりにあなたたちに与えられる土地に入ったとき、この儀式を守らねばならない。また、あなたたちの子供が、『この儀式にはどのような意味があるのですか』と尋ねるときは、こう答えなさい。『これが主の過越の犠牲である。主がエジプト人を撃たれたとき、エジプトにいたイスラエルの人々の家を過ぎ越し、我々の家を救われたのである』と。」民はひれ伏して礼拝した。」出 12:24-27

☞3. 「あなたは年に三度、わたしのために祭りを行わねばならない。あなたは除酵祭を守らねばならない。七日の間、わたしが命じたように、あなたはアビブの月の定められた時に酵母を入れないパンを食べねばならない。あなたはその時エジプトを出たからである。」出 23 : 14-15

☞4. 「わたしがあなたがたに伝えたことは、わたし自身、主から受けたものです。すなわち、主イエスは、引き渡される夜、パンを取り、感謝の祈りをささげてそれを裂き、「これは、あなたがたのためのわたしの体である。わたしの記念としてこのように行いなさい」と言われました。また、食事の後で、杯も同じようにして、「この杯は、わたしの血によって立てられる新しい契約である。飲む度に、わたしの記念としてこのように行いなさい」と言われました。」1 コリ 11:23-25

❖ 「典礼」という語はもともと「公共の事業」、「公衆の名で、あるいは公衆のために行われる奉仕」という意味を持っています。キリスト教の伝承では、神の民が「神のみわざ」に参与することを意味しています。典礼によって、わたしたちのあがないの主、大祭司であるキリストは、教会の中で、教会とともに、教会によって、わたしたちのあがないのわざを続けられます。」(カトリック教会のカテキズム 1069)

❖ 「新約聖書の中で「典礼」の語は神を礼拝する祭儀のほかに、福音の告知や愛の実践の意味でも用いられています。これらすべては、神と人々への奉仕です。典礼祭儀において、教会は、唯一の「典礼執行者」であるキリストに倣う者であり、キリストの祭司職(礼拝)、預言職(告知)、および王職(愛の奉仕)にあずかっています。」(カトリック教会のカテキズム 1070)

典礼憲章によるカトリック教会の典礼の神学的な基礎

1. 典礼は救いの歴史の続きである。
2. 典礼は、キリストの司祭職の行使である。
3. 典礼は教会全体の働きである。
4. 典礼は、しるしに示される、キリストと教会の働きである。

1. 典礼は救いの歴史の続きである。

📖5. 「神は、すべての人々が救われて真理を知るようになることを望んでおられます。」 1テモ 2:4

📖6. 「神は、かつて預言者たちによって、多くのかたちで、また多くのしかたで先祖に語られたが、この終わりの時代には、御子によってわたしたちに語られました。」 ヘブ 1:1-2

- ◆ 「子の人間性は、みことばの位格との一致において、われわれの救いの道具であった。これによって、キリストにおいて、「われわれの和解のための完全ななだめが行なわれ、神への完全な礼拝が、われわれにとって可能となったのである」(典礼憲章 5)

(別の翻訳) 「みことばの位格 (ペルソナ) と一致にしている御子の人間性は、わたしたちの救いの手段であった。そのために、キリストにおいて、わたしたちの宥められた神との完全な和解が実現され、わたしたちに神への礼拝 (の方法) が豊かに与えられた。」

- ◎ キリストが成し遂げられた救いの業によって

1. 人間は神と和解させていただいた
2. 神は完全な礼拝を受けられた (礼拝=神への奉仕、愛のいけにえ、自己奉獻)

AD1

📖7. 「敵であったときでさえ、御子の死によって神と和解させていただいたのであれば、和解させていただいた今は、御子の命によって救われるのはなおさらです。」 ロマ 5:10

AD2

📖8. 「さて、ザカリアは自分の組が当番で、神の御前で祭司の務めをしていたとき、祭司職のしきたりによってくじを引いたところ、主の聖所に入って香をたくことになった。」 ルカ 1:8-9

📖9. 「しかし、まことの礼拝をする者たちが、霊と真理をもって父を礼拝する時が来る。今がその時である。なぜなら、父はこのように礼拝する者を求めておられるからだ。神は霊である。だから、神を礼拝する者は、霊と真理をもって礼拝しなければならない。」 ヨハ 4:23-24

📖10. 「こういうわけで、兄弟たち、神の憐れみによってあなたがたに勧めます。自分の体を神に喜ばれる聖なる生けるいけにえとして献げなさい。これこそ、あなたがたのなすべき礼拝です。」 ロマ 12:1

📖11. 「まして、永遠の“霊”によって、御自身をきずのないものとして神に献げられたキリストの血は、わたしたちの良心を死んだ業から清めて、生ける神を礼拝するようにさせないでしょうか。」

口語訳：「永遠の聖霊によって、ご自身を傷なき者として神にささげられたキリストの血は、なおさら、わたしたちの良心をきよめて死んだわざを取り除き、生ける神に仕える者としないであろうか。」 ヘブ 9:14

- ◎ λατρεύω,ν {lat-ryoo'-o} 神や人に仕える；(新約) 宗教的な祭儀、礼拝；司祭として務める

📖12. 「キリストは、神の身分でありながら、神と等しい者であることに固執しようとは思わず、かえって自分を無にして、僕の身分になり、人間と同じ者になられました。人間の姿で現れ、へりくだって、死に至るまで、それも十字架の死に至るまで従順でした。このため、神はキリストを高く上げ、あらゆる名にまさる名をお与えになりました。こうして、天上のもの、地上のもの、地下のものがすべて、イエスの御名にひざまずき、すべての舌が、「イエス・キリストは主である」と公に宣べて、父である神をたたえるのです。」 フィリ 2:6-11

☞13. 「わたしたちの主イエス・キリストの父である神は、ほめたたえられますように。神は、わたしたちをキリストにおいて、天のあらゆる霊的な祝福で満たしてくださいました。天地創造の前に、神はわたしたちを愛して、御自分の前で聖なる者、汚れのない者にしようと、キリストにおいてお選びになりました。イエス・キリストによって神の子にしようと、御心のままに前もってお定めになったのです。神がその愛する御子によって与えてくださった輝かしい恵みを、わたしたちがたたえるためです。」 エフェ 1:3-6

◎ Εὐλογητός ὁ θεὸς καὶ πατὴρ τοῦ κυρίου ἡμῶν Ἰησοῦ Χριστοῦ, ὁ εὐλογήσας ἡμᾶς ἐν πάσῃ εὐλογία πνευματικῇ ἐν τοῖς ἐπουρανίοις ἐν Χριστῷ,

εὐλογία, n {yoo-log-ee '-ah} = 祝福する、賛美する

eulogia / benedictio 祝福(賛美)とは御父を源とする神的働きで、いのちを与えるものです。

神の祝福は、ことばとたまものとが一体となったもの (eu / bene=よく - logia / dictio=いうこと <エウーロギア>) です。 (「神は言われた。「光あれ。」こうして、光があった。」創 1:3)

人間が神を賛美する(祝福する)という表現は、感謝を込めて創造主を礼拝し帰依することを意味します。(カトリック教会のカテキズム 1078)

❖ 「被造物は安息日のため、したがって、神の崇敬と礼拝のために造られました。被造物の秩序には神への礼拝が刻み込まれています。「何ものも神の礼拝に優先させてはならない」と聖ベネディクトの修道会則は述べ、人間の関心事の正しい順序を示しています。」(カトリック教会のカテキズム 347)

◆ 「したがって、キリストは自分が父から派遣されたように、聖霊に満たされた使徒を派遣した。それは、かれらがすべての被造物に福音をのべ伝えるためだけではなかった。すなわち、神の子が自身の死と復活によって、われわれをサタンの力と死から解放し、父の国に移されたことを告げるためだけではなかった。全典礼生活の中心である犠牲と諸秘跡を通して、かれらが告げた救いのわざが、行なわれるためでもあった。」(典礼憲章 6)

◆ 天上の典礼につながる地上の典礼

「地上の典礼において、われわれは天上の典礼を前もって味わい、これに参加している。この天上の典礼は、旅人であるわれわれが目指す聖なる都、エルサレムにおいて行なわれており、そこにはキリストが、至聖所と真の幕屋の奉仕者として、神の右に坐っている。われわれは、天上のすべての軍勢とともに、主に栄光の賛歌を歌い、諸聖人の記念を尊敬して、かれらの交わりに参加することを望み、われわれの生命である主が現われ、われわれも主とともに栄光のうちに現われる時まで、救い主、われわれの主イエズス・キリストを待ち望むのである。」(典礼憲章 8)

Ex Patrem, per Christum, in Spiritu, ad Patrem.

父から、キリストによって、聖霊の交わりの中で、父へ

☞14. 「わたしたちにとっては、唯一の神、父である神がおられ、万物はこの神から出、わたしたちはこの神へ帰って行くのです。また、唯一の主、イエス・キリストがおられ、万物はこの主によって存在し、わたしたちもこの主によって存在しているのです。」 1 コリ 8:6

2. 典礼は、キリストの司祭職の行使である。

◎ 教皇ピオ十二世の回勅 *Mediator Dei* メディアトル・デイ（神の仲介者）1947年

◇ 典礼は、キリストの働きである。

◇ キリストは、受肉によって大祭司、神と人間との仲介者となった。

📖 「神は唯一であり、神と人との間の仲介者も、人であるキリスト・イエスただおひとりなのです。」 1テモ 2:5

祭司 神と人との仲介者、すなわち人々のために人々に代わって神に礼拝と供え物をささげ、祭儀をつかさどる人。旧約では、レビ人がその任についた。新約では、エルサレム神殿の宗教儀式をつかさどる聖職者とその家系を指す。

仲介者 神と人間との間に立って、和解の仲立ちをする者。旧約では、モーセが神とイスラエルの契約の仲介者といわれたが、新約では、キリストが新しい契約の唯一の仲介者であられる（1テモ 2:5、ヘブ 8:6, 9:15）。

◆ 「このような偉大なわざを成就するためにキリストは、常に自分の教会とともに、特に典礼行為に現存している。キリストはミサの犠牲のうちに現存している。「かつて十字架上で自身をささげた同じキリストが、今、司祭の奉仕によって奉獻者として」司祭のうちに現存するとともに、また特に、聖体の両形態のもとに現存している。キリストは、自身の力をもって諸秘跡のうちに現存している。すなわち、だれかが洗礼を授けるとき、キリスト自身が洗礼を授けるのである。キリストは自身のことはのうちに現存している。聖書が教会で読まれるとき、キリスト自身が語るのである。なお、「わたしの名によって、2・3人が集まるところに、わたしもその中にいる」（マタイ 18・20）と約束したキリストは、教会が懇願し、賛美を歌うときにも現存している。

事実、神に完全な栄光が帰せられ、人が聖化されるこのような偉大なわざにおいて、キリストは、自分の最愛の花嫁である教会を常に自身に結びつけ、教会は自分の主を呼び、主によって永遠の父に礼拝をささげるのである。

したがって典礼は、当然キリスト・イエスの祭司職の行使と考えられるもので、典礼においては、人間の聖化が感覚的なしるしによって示されるとともにまた、おのおののしるしに固有な方法で実現されます。そしてイエス・キリストの神秘体、すなわち、その頭と肢体とによって、公的礼拝全体が行われるのです。したがって、典礼祭儀は、すべて、祭司キリストとそのからだである教会のわざなのですから、他に卓越した聖なる行為であって、その効果に対して、教会の他のいかなる活動にも、同等の理由や程度でこれに匹敵するものではありません。」（典礼憲章7）

◎ 大祭司としてのキリストの努め：

1. 父への礼拝（神のみ旨を行い、自分自身を神にささげること）

2. 人の聖化（キリストに結び付けること、キリストによって神と一つになること）

◇ 人間の聖化と神への礼拝は、典礼の基本的な部分である。

◇ 礼拝（祭儀と生活）は、人間の救い（聖化）を求める神の働きへの応答である。

◇ 典礼は、キリストの仲介による、人間の神との出会いであり、対話である。

3. 典礼は教会全体の働きである。

◎ 教皇ピオ十二世の回勅 *Mistici Corporis* ミスティチ・コルポリスー (キリストの神秘体) 1943年

☞15. 「体は一つでも、多くの部分から成り、体のすべての部分の数は多くても、体は一つであるように、キリストの場合も同様である。つまり、一つの霊によって、わたしたちは、ユダヤ人であろうとギリシア人であろうと、奴隷であろうと自由な身分の者であろうと、皆一つの体となるために洗礼を受け、皆一つの霊をのませてもらったのです。」 1 コリ 12:12

☞16. 「あなたがたはキリストの体であり、また、一人一人はその部分です。 神は、教会の中にいろいろな人をお立てになりました。第一に使徒、第二に預言者、第三に教師、次に奇跡を行う者、その次に病気をいやす賜物を持つ者、援助する者、管理する者、異言を語る者などです。」 1 コリ 12:27-28

◆ 「事実、典礼は信者が、キリストの秘義と真の教会の本来の性格とを生活をもってあらわし、他の人々にも示すために大いに役立つものである。典礼によって、特に神聖な聖体の犠牲において「われわれのあがないのわざが行なわれる」からである。人間的であると同時に神的であり、見えるものでありながら、見えない要素に富み、活動に熱心であるとともに観想に励み、世の中にありながら旅するものであることが、この教会に特有のものである。しかも、そこでは人間的なものが神的なものに、見えるものが見えないものに、活動が観想に、そして現在がわれわれの求める未来の国に向けられ、従属している。」(典礼憲章 2)

◆ 「典礼行為は、個人的行為ではなく、教会の祭儀である。教会は「一致の秘跡」、すなわち、司教のもとに一つに統合された聖なる民である。そのため、典礼行為は教会のからだ全体のものであり、これを表わし、これに働きかけるとともに、その個々の成員に、序列、役割、現実の参加の違いによって、それぞれ異なった仕方に関係する。」(典礼憲章 26)

◆ 「典礼の祭儀においては、教役者も信者も、各自が自分の役割を果たし、そのことからの性質と典礼上の規定によって、自分に属することだけを、そしてそのすべてを行なうべきである。」(典礼憲章 28)

◆ 「また、侍者、朗読者、解説者、聖歌隊に属する者も、真に典礼的奉仕を行なう。したがって、自分の役割を、この偉大な奉仕にふさわしい、また、神の民が当然期待している誠実な信仰心と秩序をもって果たさなければならない。」(典礼憲章 29)

◆ 「行動的な参加を推進するため、会衆の応唱、答唱、詩編唱和、交唱、聖歌、さらに、行為すなわち動作と姿勢まで考慮されなければならない。また、沈黙の時には聖なる沈黙を守らなければならない。」(典礼憲章 30)

◎ 典礼は、教会の本来の性格を現わすだけではなく、教会の中心的な働きと使命である。

◆ 「それにもかかわらず、典礼は教会の活動が目指す頂点であり、同時に教会のあらゆる力が流れ出る泉である。事実、使徒的な働きは、すべての人が信仰と洗礼によって神の子となり、一つに集まって教会の中で神をたたえ、犠牲にあずかって主の晩さんをお食するようになることを目標としているからである。

他方、典礼自身は、「復活の諸秘跡」に満たされた信者が、「愛によって一つの心に結ばれる」よう励まし、「信仰によって知ったことを、生活において保つ」よう祈る。また、聖体祭儀によって行なわれる主と人々との契約の更新は、信者をキリストの迫る愛にかりたてて燃やすのである。

したがって、あたかも泉からのように、典礼、おもに聖体祭儀から、われわれに恩恵が注がれ、キリストにおける人間の聖化と、神の栄光が最も効果的に得られる。教会の他のすべての働きは、その目的として、神の栄光を目指している。」(典礼憲章 10)

- ◎ 教会の役割（使命）
 - a. 人間の聖化（神との和解、神との一致に至る神との絆を深める）
 - b. 教える（福音の宣教・信仰を持っていない人を信仰に導く、信者の信仰を深める）
 - c. 指導と奉仕（神の民を導く・善と悪について教える（道徳的な行動）、使徒的働き（愛に実践））

4. 典礼は、しるしに示される、キリストと教会の働きである。

- ◆ 「したがって典礼は、当然キリスト・イエスの祭司職の行使と考えられるもので、典礼においては、人間の聖化が感覚的なしるしによって示されるとともにまた、おのおののしるしに固有な方法で実現されます。」（典礼憲章7）
- ❖ 「御父の右に座し」、教会であるご自分のからだに聖霊を注がれた今、キリストは恵みを分かち与えるために制定された諸秘跡を通して行動されます。秘跡とは、人間であるわたしたちの力でもとらえられる感覚的なしるし（ことばと行い）であり、キリストの働きと聖霊の力によって、しるしが表す恵みを効果的に与えるものです。（カトリック教会のカテキズム 1084）
- ◎ キリスト自身は、目に見えない神の目に見えるしるしです。

☞ 「御子は、見えない神の姿であり、すべてのものが造られる前に生まれた方です。」 ヨハ 1.15
- ◎ キリストのからだである教会は救いの秘跡です。（キリストの救いの業と復活したキリストの現存の目に見えるしるしになることは、教会の使命、存在の意義）
- ◎ 秘跡は、キリストによって定められた行為で、聖霊の力によるキリストご自身の行動ですので、キリストを代理する司祭の心の状態を問わずに、必ず完全な行為ですが、その実り（効果）は、この秘跡を受ける人の心の状態（信仰）にかかっています。
- ◎ 秘跡は、信仰を前提とするだけでなく、ことばともの（しるし、象徴、行い）とによってこれを養い、強め、現わすものであります。
- ◎ 秘跡の目的（典礼憲章 59）
 1. 人々の聖化（キリストとの一致を深めること）
 2. キリストの体の建設
 3. 神に礼拝をささげること
 4. しるしであることによって、教育のためにも寄与する
- ◆ 「キリストを信ずる民が聖なる典礼において豊かな恩恵をより確実に得るように、母なる教会は典礼の一般的な刷新を真剣に望んでいる。それは、典礼が神の制定による変更不可能な部分と、変更可能な部分から成り立っているからである。後者は、時代の変遷とともに変更が可能であり、適当でなくなったり、あるいは、典礼の本質的な性格に適合しないものが入り込んだ場合には、むしろ変更すべきものである。この刷新によって、典礼文と儀式が示す聖なることがらが、明白に表現され、また、キリストを信ずる民が、聖なることがらをできるだけ容易に理解し、共同体としての祭儀にふさわしく、充実した行動的な参加ができるように典礼文と儀式とを整える必要がある。」（典礼憲章 21）